

# 上海における『良友』画報にあらわれた中国人像

ZHAO Yan

『良友』画報は1926年2月15日に上海に創刊し、1945年10月10日に停刊された。出版されていた20年間において、総計で174号が発行されていた。その中に掲載されたイラストは400枚以上、写真は約32000枚である。その内容は中外時事、科学知識、文芸作品、運動競技、婦人生活などの多様な情報である。特に、画報では、軍政人物や書画大家や映画俳優や商業富豪などのセレブから、下層社会の普通な兵士や庶民などまでの大量の人物が紹介されている。『良友』画報は中国社会の情勢の変化を映し出していた。同時に、それは中国と中国人を詳細的に記録していた。

しかし、『良友』画報にあらわれていた中国人像に関する体系的な研究は、まだ少ない。そして、本研究は、歴史社会学の方法とコミュニケーション学の視点から、内容分析を行い、各時期において、画報の中での中国人像を抽出する。また、各時期での中国人像の変容も明らかにしていく。さらに、画報における面像と文章を合わせた多様なメディア表象のあり方は、人物像の表現において相補的な意味を有している。最後に、孫文と蒋介石という人像を例として、画報は中人物を描かれていた上で、想像的な民族や国家の構築を瞥見する。本研究は、中国人のイメージ、特に中国人像の変容についての研究に寄与するであろう。